

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 玖珠美山 高等学校	
学校教育目標	「自立・創造・協同」の校訓のもと、高い識見と豊かな情操を養い、社会を逞しく生き抜く力を身につけた、心身ともに健全な生徒の育成			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<p>○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。</p> <p>○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。</p>	<p>・よい。</p> <p>・新設校創立より7年目を迎えるにあたり、地域や生徒の現状を踏まえ、開校からの「Change→Chance→Challenge！」というスローガンを改め、生徒も教職員も玖珠美山高校に誇りを持ってほしいという思いのこもった「美山PRIDE」という新たなスローガン(ビジョンを包含するもの)が再設定(更新)されている。このことから、学校の方向性は明確に示されていると判断する。</p> <p>・スローガンの変更前と変更後で、目指す生徒像や資質・能力、それを実現するための具体的な教育活動(取組)がどのように変わったのか、外部からはやや見えにくいと感じた。スローガンの具現化として、学校教育目標で示す育成したい生徒像について、日々の教育活動の中で、どのように育てていくのか、今後より明確に示されていくことを期待する。また、10周年に向けた新たな目標、活動の計画を作ることも期待される。</p>	<p>・スローガンを変更したことによって学校教育目標や資質・能力、それを実現するための具体的な教育活動の変化が明確になるよう全教職員で取り組んでいく。そして、地域の方々にも理解してもらえるような学校経営ビジョンの策定と広報活動を行う。</p> <p>・開校10周年に向けた新たな学校教育目標や中期目標、重点目標の検討に着手する。</p>
	P D C A サイクル	<p>○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。</p> <p>○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。</p>	<p>・よい。</p> <p>・自己評価や生徒・保護者アンケート等を活用し、目標達成に向けて組織的に取り組んでいる。このことから、マネジメントサイクル(PDCAサイクル)が展開するように取り組んでいると判断する。</p> <p>・生徒・保護者アンケートの結果について、昨年度と数値が大きく変化している項目が存在する。教育活動の検証・改善のために、その要因は何か等の分析を期待する。</p>	<p>・生徒・保護者アンケートの結果を学年進行で分析することを考慮しながら、前年度と数値が大きく変化している項目については検証する。その中で、教育活動の改善等が必要な場合は早急に対応する。</p>
	社会との連携・接続	<p>○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。</li> <li>・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。</li> <li>・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。</li> </ul>	<p>・極めてよい。</p> <p>・地域の人々との交流を通じて、生徒の成長と地域に信頼される学校であることが確認できる。特に、大半の保護者・生徒が玖珠美山高校に通って良かったと思っていること、郡内の中学生の志願者率も増えていることは評価できる。これらは、今まで培ったHANEプロジェクトや学校運営協議会での成果であり、地域とともに生徒を育て、地域になくてはならない学校として、活動の継続を期待する。</p> <p>・みやまNEWSやHPIにおいて、進路に関する情報や生徒の姿が丁寧に発信されており、地域へ情報発信が積極的にされており、開かれた学校として効果がでている。</p>	<p>・今後も地域の学校、開かれた学校として地域の方々から信頼されるよう、ホームページの更新や「みやまNEWS」などをはじめとした学校からの広報活動を適切に行う。</p> <p>・生徒・保護者の「学校への満足度」が高水準で維持できるよう継続した教育活動を行う。</p>
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<p>○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてP D C A サイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。</p> <p>○授業の活性化が図られているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。</li> <li>・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。</li> </ul> <p>○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。</p>	<p>・よい。</p> <p>・学校として、授業改善の重点が設定されていること、年2回の授業研究会を含む授業改善の計画が作成・実施されていること、学期毎に生徒授業アンケートを通して検証が行われていることから、授業改善が組織的に進められていると判断する。</p> <p>・授業について、生徒授業アンケートでは多くの生徒が肯定的に回答している。アンケート分析を通して、さらなる授業の活性化及び否定的な回答を行った生徒への対応等が進められることを期待する。</p> <p>・生徒授業アンケートは肯定的な回答の割合が高い一方で、生徒ヒアリングからは「一方的な授業がある」「教え込まれている」という意見もあり、コロナ禍の状況ではあるからこそ、生徒の学習意欲や学習のペース、生徒とのコミュニケーションについて、より一層の考慮が必要と思われる。</p> <p>・今年度導入された一人一台端末(iPad)については、生徒から授業における利用率が低い(授業によって差がある)、家庭学習時間ではほとんど使わないという意見があった。主体的・対話的で深い学びの実現や学習習慣の定着に向けて、どのような活用場面があるのかをさらに検討してもらいたい。</p>	<p>・生徒アンケート結果からは肯定的な回答が多いが、一部では「一方的な授業がある」、「考える時間が少ない」といった意見もあることから、生徒の学習意欲や個に応じた指導が徹底できるよう、授業改善P L を中心に改善を図る。</p> <p>・「生徒がタブレットを活用できる場面が少ない」という意見を受け、具体的に授業内や家庭学習で活用できるように設定する。そして、「主体的な学び」「深い学び」の実現および学習習慣の定着に向けても検討する。</p>
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<p>○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。</p> <p>○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。</p>	<p>・極めてよい。</p> <p>・生徒へのいじめアンケートを定期的にとり、いじめ・不登校生への対応を早め早めに行っている。</p> <p>・タブレットに悩み相談アプリ導入し、「悩み解消ツール」として活用することで、快適な生活環境づくりを行っている。</p> <p>・あいさつ運動などの取組により、生徒・教職員の関係が良好なことはいじめ・不登校がほとんどない原因と思われる。</p>	<p>・各学期の開始に合わせ、面接時間を設定するなどして、生徒把握に努めるとともに、何でも話せる環境づくりを構築する。</p> <p>・今後もいじめ対応・不登校生へのアプローチを的確に行い、解決に向け適切に対応する。</p>
	安全管理	<p>○学校施設や通走路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</p> <p>○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。</p>	<p>・極めてよい。</p> <p>・過去にあった事故を教訓とし、安全安心な学校づくりのため、施設点検マニュアルの作成や毎月の安全点検の実施など、安全管理が組織的に行われていることは大いに評価できる。地震発生時の連絡とその対応については、速やかに生徒に情報が伝わるよう対策と演習を実施してもらいたい。</p> <p>・地域産業科では、授業中に様々な道具や器具を使用するため、JGAPを取得し、リスク管理も行われている。服装の整備や生徒の作業内容の理解状況に応じた農業機械操作などの作業体験など、怪我・事故の防止に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>・過去にあった校内事故を今後も教訓として、「危機管理マニュアル」を年度ごとに検証し見直しを行う。地震発生時の連絡体制等についてもシミュレーションを行う。洪水・水害についてのマニュアル作成も進めており、訓練についても検討している。</p> <p>・地域産業科のリスク管理についても引き続き、事故等が無いよう適切に処理する。</p>
信頼される学校づくり	働き方改革	<p>○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。</li> <li>・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。</li> <li>・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、I C T の効果的な活用によって業務改善が図られているか。</li> </ul>	<p>・タイムレコーダーの活用などにより、就業時間を意識した業務効率化が図られている。夏季休暇については全職員が取得完了し、年次有給休暇の取得日数についても、達成間近となっている。</p> <p>・分掌を複数名で編成することで、個人に仕事が偏らないように組織的に取り組んでいる。</p> <p>・教員の中には、業務が改善されていないと感じている人もいる。生徒から行事が多すぎるため多忙であるという意見もあり、各分掌で課題を持ち寄り検討し、人員の増加や行事のスクラップなど取り組む必要がある。</p>	<p>・教職員の多忙化に繋がらないように、分掌配置・業務分担を分掌主任等の意見も反映させて適切に行う。</p> <p>・学校行事・業務のスクラップについても検討していく。</p>
	学校課題の解決に向けた取組等	<p>○学校教育を通して、地域に信頼される学校づくりを行い、定員確保に向けた取組が行われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校独自の魅力的、特色ある取組を行い、地域に発信しているか。</li> <li>・地域との連携、協力等を行い、郷土を愛し、郷土の発展に貢献する意欲・態度の育成が図られているか。</li> </ul>	<p>・様々な学校行事や母校訪問での学校紹介、中高の教員連携や志学塾との連携により、郡内中学校からの進学希望者が60%を超えたこと、地域産業科の定員充足など良い傾向にある。今後は、町外に進学した生徒の志望理由の分析と、自立した生徒像の下、協同による新たな学校の魅力発信を続けることで、定員を確保し活気ある学校経営を期待する。</p> <p>・学校生活に対する生徒の満足度が高い。その一方で、進路指導について、もう少し話を聞いてほしいとの声もあり、このような取組を丁寧にやっていくことで、結果的に定員充足につながっていくものと考ええる。</p>	<p>・定員充足に向け、郡外に進学した生徒の志望理由の分析を可能な限り行い、それを踏まえて学校の魅力発信を中学生・保護者だけでなく地域の方々にも行っていく。</p> <p>・生徒の進路指導に関しては、幅広い選択肢の中なら生徒自身が選択できる体制を確立させる。</p>
総合評価	<p>・「美山PRIDE」というスローガンによって、学校の目指す方向性は明確に示されている。また、そのことを踏まえて、マネジメントサイクル(PDCAサイクル)が展開するように取り組んでいる。今後、こうした思いを体現した教育活動がさらに展開されることを期待したい。</p> <p>・授業改善について、組織的に取り組んでおり、生徒への授業アンケート等を活用してその検証・改善も行われている。これらのことについて、今後継続的に進められることを期待したい。</p> <p>・各種アンケートの昨年度からの変化に着目した分析を行い、それらに基づく主体的対話的で深い学びの授業改善、進路指導等における対話的指導、積極的な情報発信等の教育活動への取組が結果的に定員充足にもつながっていくものと考ええる。また、10周年に向けた新たな目標、活動計画を設定し、益々地域に根付いた活力あふれる学校となることを願いたい。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・「美山PRIDE」というスローガンが生徒・教職員に浸透し、この思いを体現した教育活動が展開できるように努めたい。</p> <p>・授業改善については、生徒アンケート結果から肯定的な回答が多く、一定の成果がうかがえる。しかし、一部の生徒の貴重な意見を受け止め、今後も地域の「開かれた学校」として授業改善に努める。</p> <p>・在校生やその保護者の「学校への満足度」が高水準で維持できるよう、さまざまな教育活動を実践していくとともに、10周年に向けた新たな目標の設定、教育活動の見直しに着手し、地域に「信頼される学校」として適切な情報発信を継続する。</p>			